

入選

架け橋となる水

阿波市立阿波中学校 三年 井内 姫和

私が生まれた阿波市は自然豊かで水と深く関わってきました。私の家の周りは夏になると、田に水が張られます。水はお米を育てる上で欠かせない存在です。しかし、田の水は意外な点でも私たちを支えています。それは年々悪化する夏の気温上昇の緩和です。田に水が張られたところとコンクリートの地面だけのところでは体感気温は全く異なるでしょう。また、一面に広がる水田の景色は視覚的にも涼しさを感じさせます。

私の家の周りには水田だけでなく、水田を繋ぐ水路もたくさんあります。水路の中では様々な生物が見られます。彼らの生活では水が必要不可欠でしょう。それは私たち人間も同じです。水がなくなると生活が困難になります。水は地球上の生命を支えているのです。

徳島県には日本三大暴れ川の一つである吉野川が流れています。徳島は昔から吉野川による洪水に悩まされてきました。洪水が起こる度、川沿いにあったもの全てが流されました。しかし、吉野川が与えるものは損害だけではありませんでした。洪水のあとには豊かな栄養を含んだ土を残していったのです。そのおかげで、徳島では藍の生産が盛んになり、藍染めという今でも受け継がれる文化が生まれました。吉野川は人や文化を繋ぐ架け橋になりました。水は文化面でも人に大きな影響を与えたのです。

このように、水は私たちの生活に密接に関係してきました。しかし私たちはそんな水を本当に大切にできているのでしょうか。

私がそう考えたきっかけは、家の周りを散歩しているときでした。水路を覗くとそこには生き物、ではなくプラスチック容器がありました。おそらく、コンビニエンスストアで買ったものでしょう。お弁当の容器のようでした。道端に捨てられたものが風で飛ばされて落ちたのか、最初から水路に向かって投げられたのか。どちらにしてもポイ捨てされたものということは、はっきりしていました。

ポイ捨てをすることは決して環境に優しくしているとは言えません。

もちろん水にもです。水は人だけのものではありません。水を汚すことは巡り巡って他の生物の生活を脅かすことになると思います。しかし逆に言えば、水を大切にすることは全ての生命を大切にすることに繋がるということです。水は地球をぐるぐるとまわっています。山から川へ、川から海へ、そして雲になり、また山へ。このサイクルの中に全ての生命は生きています。人が水を使用する中でいかに汚さずにそしてきれいにして自然に返せるか。これが、水と共存する私たちにできることではないでしょうか。

私にとって水は「人と人、人と他の生き物を繋いでくれる架け橋」です。私たちは世界中と海で繋がっています。日本で捨てられたものは他の国に流れ、それを見た人に嫌な思いをさせてしまうかもしれません。実際私もゴミを見たことで嫌な気持ちになりました。私は、人も生き物も大切にすることへの第一歩として水を大切にすることが重要だと思います。

水には大きな力がありそれが人にとって良い方に動くか悪い方に動くかは誰にも分かりません。吉野川の洪水のように全てを流してしまうかもしれないです。しかし、水はそれ以上に徳島の藍染めのような恵みをもたらします。そんな水への感謝の気持ちを忘れずに私は水を汚さない生活を心がけていきます。